

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月6日

【評価実施概要】

事業所番号	0170501829		
法人名	有限会社 プラクティス		
事業所名	グループホーム セセラぎ		
所在地	〒062-0937 札幌市豊平区平岸7条13丁目2-8 (電話) 011-833-5776		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年3月15日	評価確定日	平成22年4月6日

【情報提供票より】(平成21年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	1月	6日
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	9人	常勤	7人,	非常勤 2人, 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000	円	その他の経費(月額)	22,000~33,000	円	
敷金	有()	円		無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(60,000円)		有りの場合 償却の有無	有 / 無		
食材料費	朝食		円	昼食		円
	夕食		円	おやつ		円
	または1日当たり		1,200	円		

(4) 利用者の概要(3月15日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名	
要介護1	1名	要介護2	1名			
要介護3	3名	要介護4	2名			
要介護5	1名	要支援2	1名			
年齢	平均	82.2歳	最低	77歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	もなみ内科クリニック・北海道社会保険中央病院・平岡病院・桜歯科クリニック
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、昨年7月に移転し、2ユニットから1ユニット体制となった。廊下を隔てた向かいが小規模多機能居宅介護となっており、グループホーム利用者も気軽に出入りしている。移転後は、改めて地域との関係を構築するよう、取り組み始めている。訪問医療、訪問看護等の医療体制が充実した事業所であり、終末期ケアにも対応している。また、事業所ではペットとして猫や犬を飼っており、利用者の癒しとなっている。開設から7年経ち、利用者の介護度も高くなってきているが、職員は日常の会話や表情から利用者の思いや意向を把握することに努め、その人らしく、ゆったり安心して生活できるように、明るく穏やかに利用者に接している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の改善課題である地域とのつきあいについては、事業所移転後、改めて地域との関係作りに取り組んでいる。災害対策は、移転後も1度避難訓練を行ったが、利用者や地域住民も参加する形ではなかった。栄養摂取や水分確保の支援は、食量や水分量を個別に記録し、同一法人内の勉強会で助言や指導を受けるよう改善している。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義の理解と活用も前回評価の課題となっており、今回、自己評価には職員で分担して取り組んだ。しかし、管理者が自己評価や外部評価の意義や内容について職員に事前に説明したり、評価後に職員全員で、課題の改善に向けて具体的にどのように取り組むかという話し合いをするまでには至っていない。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、家族、職員、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員等をメンバーとし、同一法人の4事業所合同で2ヶ月に1度開催している。会議では、事業所の実際のサービスや利用者の暮らしぶりについて報告し、地域住民が事業所や利用者への理解を深める機会となっている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月、ホーム便りの他に、利用者個人の暮らしぶり等を詳細に記した手紙も送付し、家族の不安の軽減に努めている。家族アンケートを行い、家族からの意見や要望を把握するとともに、家族の来訪時には必ず声かけをし、不満や苦情等も気軽に職員に言えるような関係づくりに努めている。出された意見や要望については、カンファレンス等で話し合い速やかに対応している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	⑥	事業所は昨年7月現地に移転し、高齢者共同住宅と小規模多機能型居宅介護と併設で運営し、改めて町内会に加入し、できる範囲で活動や行事に参加したり、散歩の時には地域住民に挨拶をする、利用者の様子を伝える機関紙を回覧する等、新たな近隣との関係づくりに取り組み始めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営母体法人の理念の他に、職員で話し合い、「家庭的な雰囲気の中で、利用者がゆったりと安心して自由に過ごせるケア」を目指し、分かりやすい事業所独自の理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は居間に掲示し、職員全員で共有している。管理者は折に触れ職員に理念について話しており、日々の業務の中で理念を意識し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は昨年7月に他の地域から建物を新築して移転し、小規模多機能型居宅介護事業と併設している。町内会に加入し、活動や行事に参加したり、散歩の時には地域住民に挨拶をする、利用者の様子を伝える機関紙を回覧する等、新たな近隣との関係づくりに取り組み始めている。また、実習生の受け入れも積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員で分担して取り組んだ。しかし、管理者が自己評価や外部評価の意義や内容について職員に事前に説明したり、評価後に職員全員で、課題の改善に向けて具体的にどのように取り組むかという話し合いをするまでには至っていない。	○	ガイドブック等も参考にしながら、外部評価の意義や、具体的に事業所に何が求められているのかを全職員が把握し、評価後も、結果を踏まえて具体的にどのように改善に取り組むのか話し合う機会を設けることを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族、職員、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員等が出席し、同一法人の4事業所合同で2ヶ月に1度開催している。会議では、事業所の実際のサービスや利用者の暮らしぶりについて報告し、地域住民が事業所や利用者への理解を深める機会となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は区の連絡会議で市町村担当者と情報交換を行ったり、生活保護や介護認定に関することなどで市町村担当者と頻繁に行き来する機会があり、連携を取り合って、さらなるサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1度、ホーム便りの他に、担当職員が利用者の暮らしぶりや健康状態等について記した手紙や行事の時の写真、領収書等を送付している。また、介護計画や外部評価の結果についても送付している。職員の異動時や新人職員採用時も、ホーム便りで報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを行い、家族からの意見や要望を把握するとともに、家族の来訪時には必ず声かけをし、不満や苦情等も気軽に職員に言えるような関係づくりに努めている。出された意見や要望については、カンファレンス等で話し合い速やかに対応している。また、重要事項説明書に、内部だけでなく外部の相談窓口についても明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は馴染みの職員によるケアの重要性を理解しており、職員と個別に面談するなどストレスを軽減し、離職を抑える工夫をしている。異動や離職は少ないが、あった場合は利用者それぞれの状態に応じてダメージが少なくなるような声かけの仕方に心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1度、同一法人の事業所合同で勉強会を行っている。新人研修も計画的に行い、内容は介護技術から救命講習等各分野に亘っており、充実している。その他、職員の希望により外部研修も受講している。また、カンファレンス等で研修内容を報告し、研修を受講できなかった職員も情報を共有できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の連絡会やスタッフ研修を通して同業者との情報交換や交流をしている。法人内での勉強会に他法人の同業者を講師として招くなど、同業者との交流を通じたサービスの質の向上に取り組んでいる。また、他法人の事業所との相互訪問も検討中である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に管理者や計画作成担当者が本人や家族と面談を重ね、事業所の見学を行うなど、安心してサービスを開始できるよう工夫している。また、利用開始後も、新しい環境や他の利用者にスムーズに馴染めるよう、声かけ等の配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から昔の話を聞いたり、歴史の好きな利用者から歴史に関する話を聞く機会がある。一緒に家事をしたり、娯楽を楽しむ日常の中で、喜びや悲しみを利用者と共に共有している。また、利用者からの「ありがとう」という言葉が、職員にとって喜びであり、励みとなっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話をゆっくり聞いたり、表情を観察することで思いや意向を理解するよう心がけている。また、家族からも本人の好みやそれまでの生活習慣等についての情報を得ながら、できる限り本人の希望に沿った暮らし方ができるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当職員が計画作成前に本人や家族と話し合い、思いや希望をよく把握した上で、月1度、職員全員によるカンファレンスを行い、利用者担当職員や計画作成担当者以外の職員からの情報や意見、アイデアも取り入れながら利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1度定期的に見直しているが、見直し期間以前に状況に変化が生じた場合は、随時家族や関係者と連絡を取り合いながら、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診、買い物、散歩、理美容院など、本人や家族の希望に応じて柔軟に送迎や付き添い等の支援を行っている。また、医療体制が充実しており、終末期ケアにも対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による月2回の訪問診療や週1回の訪問看護の他、希望により歯科医の訪問診療も行っている。利用開始前からのかかりつけ医に受診を希望する場合も、状況に応じて送迎等の支援を行っている。かかりつけ医とは密に情報交換を行うよう努めている。また、特に医療的処置の必要がない利用者であっても、年に1度健康診断を受ける機会を設けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	実際に事業所で看取りを行った経験がある。看取りマニュアルを作成し、利用開始時に家族から看取りに関する意向を聞き、同意書を取り交わしている。利用開始後も本人の体調の変化に応じて、随時家族やかかりつけ医等と話し合いを重ねながら対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は穏やかに利用者に接しており、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はしていない。また、個人情報に関する指針を作成し、記録はキャビネットに鍵をかけて保管する等、個人情報の取り扱いに留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事、入浴等、事業所としての1日の大まかな時間帯は決まっているが、本人のペースや体調に応じて臨機応変に対応している。また、個人の希望に沿った外出の支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者の希望を聞き、献立に取り入れている。また、季節の行事や誕生会には特別メニューにするなど食事が楽しくなる工夫をしている。昼食前に利用者がテーブルを拭いたり、下膳を手伝ったりしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能であり、夜間も対応可能である。利用者の希望に応じて同性介助を行っている。入浴を拒否する利用者には無理強いせず曜日や時間帯をずらしたり、清拭や足浴から始めて慣れてもらう等の対応を行っている。また、入浴の順番等でトラブルが起きないように言葉かけに配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	好みや力に応じて、茶碗洗い、洗濯物たたみ、掃除、事業所で飼っている動物の世話等の手伝いを利用者がしている。また、利用者それぞれ読書やオセロ、トランプ等を楽しみ、買い物などの外出も気晴らしとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望に応じて散歩や買い物などの外出を支援しているが、事業所周辺が急な坂道であり、利用者の重度化が進んでいることから、利用者全員での遠出等は難しい状況である。	○	遠出は難しい面もあるが、今後は事業所合同でも利用者の刺激となりそうな外出行事を計画し、さらに行事を行った際には記録として書式化していくことを期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中は施錠していない。居室の鍵は、夜間のみ、利用者の希望に応じて施錠しているが、職員が外側から開けることができる。玄関には鈴を取りつけ、職員が利用者の外出を察知できるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	移転前から半年に1度避難訓練を行っていたが、移転後も1度消防署の指導の下、通報訓練や消火器を使った消火等の避難訓練を行っている。防火マニュアルや防火点検表を作成し、消防署による定期点検の他に、月に1度自主点検を行っている。しかし、利用者や地域住民も参加する形での避難訓練はまだ行っていない。	○	今後は、実際に利用者も避難する、地域住民と共に訓練や夜間を想定した訓練を行うなど、さらに災害時の体制を強化していくことを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量はチェック表に記載し把握している。水分摂取量の少ない場合は、小さなコップでこまめに補給したり、ゼリーを利用する等の工夫をしている。利用者の状態により、刻み食、粥、とろみ、糖尿病食等の対応を行っている。また、栄養バランスの良い献立の立て方について、勉強会で助言を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内は全てバリアフリーであり、廊下、浴室、トイレ等には手すりを付けており、事業所全体に床暖房を完備し足元が暖かくなっている。廊下と居間の間にソファを置き、利用者が座って少し休んだり、くつろぐことができるようにしている。また、音や光、臭いにも配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みの調度品、思い出の品などを自由に持ち込み、落ち着いて居心地良く過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。